

第3回 標準委員会 発電炉専門部会
安全解析のための風洞実験分科会 議事録

1. 日時 平成13年4月19日(木) 13時30分～17時00分
2. 場所 日本原子力学会 会議室
3. 出席者(敬称略)
(出席委員) 井手(主査)、柿島(副主査)、白木(幹事)、大場、佐田、鈴木、福田、水本、村松、山澤(10名)
(欠席委員) 安達(1名)
(常時参加者) 門田、金森、矢尾板(3名)
(傍聴者) 村杉(1名)
(事務局) 太田、市園

4. 配布資料

- P3SC3-1 第2回安全解析のための風洞実験分科会議事録(案)
- P3SC3-2 標準委員会の活動状況
- P3SC3-3 「安全解析のための風洞実験分科会」における標準策定の範囲について
- P3SC3-4 安全解析のための風洞実験に必要な実験条件の選定の研究
〔電中研総合報告:219の抜粋〕
- P3SC3-5 建屋増設による排気筒有効高さの変化について(H地点)
- P3SC3-6 増設建屋が既設炉の排気筒有効高さに及ぼす影響の調査
- P3SC3-7 建屋増設による排気筒有効高さの変化について

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、委員11名中10名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。

1) 前回議事録の確認

前回議事録について承認された(P3SC3-1)。

2) 全体活動状況について

事務局より、P3SC3-2により、第5回発電炉専門部会他の報告があった。専門部会における本分科会報告の中で、気象指針との関係で若干言葉足らずの面があったが、今後の専門部会報告の中でより正確な情報の伝達に努めていく。

3) 標準策定の範囲について

白木幹事より、P3SC3-3により標準策定の範囲についての説明を行った。本内容を標準本体の「適用範囲」の項に盛り込んでいくこととした。

4) 風洞実験方法の検討

白木幹事より、P3SC2-6(前回会議配布資料)により、原子力安全研究協会作成の風洞実験実施規定案に基づく風洞実験の実施方法の説明があり、引き続き、柿島副主査、大場、水本、佐田の各委員より、P3SC3-4～P3SC3-7により、実際の発電所を対象とした具体的な実験の実施事例について説明があった。以下のような審議が行われた。

- ・風洞実験の実施方法に加え、風洞実験を行う条件等を標準に記載することについて今後検討が必要。
- ・原子力安全研究協会作成の実施規定案は、骨格としてできあがっており、これを参考にして、標準として何を記載すべきかの議論が必要。例えば日本の場合、平坦地は少なく、これに関する事項は削減できるかも知れない。
- ・(財)電力中央研究所の実験結果及び実際の発電所の風洞実験結果から、スタック高さが建屋高さの2.5倍以上あれば結果には建屋の影響は現れないと言えそうである。

3) 今後の進め方

- ・本日の分科会で、標準を作成する上で必要なデータを確認した(大気中立に限定)。
- ・白木幹事の方で、全体スケルトンを作成する。これを基に、関係委員の間で記載の分担をした上で原案の作成作業に着手する。
- ・取り合えず必要と思われるものは、最終的にどこに整理されるか(本文/附属書/解説)に係わらず最大限盛り込むとの考え方とする。
- ・次回の分科会では、この原案をもとに検討を行う。

6. 次回開催予定

第4回分科会を、予定通り6月7日(木)、13時30分より開催することを確認した。

以上